

プリにおける発展と教育のためのキリスト教機関(CODE)

敬愛する里親の皆さま

2021 年 8 月 17 日

わたしたちの主・救い主イエス・キリストの尊い御名により、ご挨拶申し上げます。新型コロナウイルスのパンデミックによるこの大変危険かつ落胆することが多い時期ではありますが、神の恵みにより、皆さんとご家族がお元気に過ごされ、また安全がまもられていることを、願い祈っています。皆さんが、わたしたち、とりわけプリ・キンダーガルテンスクールの小さな子どもたちのために祈って下さっていることを覚えて感謝しています。これまでのところ皆さんの祈りと神の恵みにより、わたしたちの内の誰一人として新型コロナウイルスに感染した者も、また病院に搬送された者もいません。主を讃えます。今回の一番大きな喜びはこのことです。皆さんの祈りを心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの状況

パンデミックの第一波と第二波の時期にインド全体にウィルス封じ込めのためロックダウンが命じられ、そのために何百万人ものインドの貧しい人々は職と生活の基盤を失いました。ロックダウンはウィルスの拡大を阻止するために有効な手段なのですが、この阻止対策は、必然的結果として、子どもたちと家族に永続的な影響を及ぼすことになります。インドは元々食糧不足の状況に置かれている人口が世界一と言われており、この感染拡大が始まる前に既に栄養不足の人が 1 億 8 千 9 百万人もいました。それに加え、この度の感染拡大により貧困と飢餓状態の子どもたちの数が増加しました。このような貧困の増加、食糧と医療体制の不足は、何百万人もの子どもたちに酷い影響を与えています。感染拡大が続く中、深刻なことは、子どもたちの学びが中断され、両親が貧困から抜け出せるようにと子どもに対して持っていた希望が急速に失われつつあることです。

ここ過去 1 ヶ月半の間、週日には行動制限があり、週末は完全にシャットダウンという状況でした。8 月 1 日にわたしたちの州政府は新しいガイドラインを発表しました。それに基づき、すべてのクラスの出席者を少人数に制限しながら授業を再開しています。授業とおやつに加えて、自宅で十分食えることが出来ない何人かの生徒たちには食糧配給をしています。

冬用の衣類

雨季が続いており、この後 11 月下旬には冬が始まります。皆さんご存知のように、毎年わたしたちは冬用の衣類、そしてその他の衣類を自分で買うことが出来ない貧しく助けを必要としている方々に配布しています。里親の皆さん、諸教会、女性会の皆さんには、男性用および女性用の半袖または長袖のセーター、暖かい帽子、マフラー、暖かいワンピース、ブラウス、男性と子ども用の暖かいシャツ、普段着用のワンピースなどを、この時期に送ってくださるようよろしくお願いいたします。それにより 12 月と 1 月の配布が可能になります。また生徒たちへの配布のために、冬物の衣類、特にセーター、暖かい帽子、普段着のワンピース、T シャツ、クレヨン、色鉛筆、ボールペン、ノート、お絵かき用の白い紙、歯ブラシ、ハンカチ、おもちゃ、人形、絵の具などをお願いいたします。皆さんのご協力と思いやりによって、今年は更に多くの温かい衣類を配布できればと願っています。

女の子への支援

ある方と、彼のご家族から申し出があり、この感染拡大の中で、貧しい女の子たちが自分自身とその家族を支えるために何とか収入が得られる手助けをしたいとのことでした。その方々は CODE(プリにおける発展と教育のためのキリスト教機関)を通して支援をしたいということで、2 台のミシンを提供してくださいました。この町で、縫製の技を持っていながら自宅でミシンを持っていない女の子に差し上げて欲しいとのことでした。わたしたちは町の中にある 2 つの教会の協力を得て、仕立屋で働いている貧しい家庭の女の子 2 名を選び、その 2 台のミシンを差し上げました。これにより、2 人の女の子たちは、コロナで行動制限のあるなかでも、それぞれの自宅で仕立ての仕事をして家族のためにいくらかの収入を得ることができています。

毎年行っているバーケイション・バイブルスクール

皆さんご存じのように CODE では、1986 年から毎年、宿泊型のバーケイション・バイブルスクールのプログラムを行ってきました。そのプログラムには、プリ子どもの家にいた生徒たち、そして州内の、夏季学校のない地方教会の子どもたちを招待して実施してきました。わたしたちはこのプログラムを非常に重視してきました。それは、この活動を通して多くの子どもたちがイエスさまをその生の中に迎え入れ、その多くが現在、キリスト教関連の職場、教会で働いているからです。このプログラムは大変良い影響を及ぼしているということで、プリ子どもの家を閉鎖した後も、町のすべての教会の子どもたちを対象者として続けてきました。しかしなが

ら 2019 年の威嚇的サイクロンと 2020 年の新型コロナウイルス感染拡大により、このプログラムを実施することは出来ていません。しかし、今年は、10 月ごろに、もしこの感染状況が収まるならば、参加人数を制限しながらでもバーケイション・バイブルスクールを実施したいと、願い、祈っています。お祈りください。

卒業生ジョセフ・ナーグの死去

大変残念なお知らせをしなければなりません。それは、卒業生の一人であり、インド南部のチェンナイにある教会で仕えていたジョセフ・ナーグ (Joseph Nag) が新型コロナウイルスにより亡くなったことです。彼は 10 日ほど入院をしていました。医師らによる必死の手当てに関わらず、彼は 6 月 1 日に召されてしまいました。遺されたのは妻と息子と娘です。二人の子どもたちはまだ学校に通っています。どうぞ、この悲しみのうちにある家族のために祈り下さい。



入院中の卒業生



サントッシュ・パンダ (Santosh Panda) は同じく、子どもの家の卒業生ですが、現在、新型コロナウイルスに感染し入院しています。状態は深刻で人工呼吸器に繋がれています。彼は郵便局員で、妻は教師です。息子が一人います。彼自身はヒンズー教徒ですが、お連れ合いから、夫はイエス様こそが癒し手であると信じているので、どうぞ祈って欲しい、と連絡をいただきました。どうぞ、彼の完全なる癒しのために、お祈り下さい。

日本のための祈り

日本では日毎に感染力の強いデルタ株の影響により、新型コロナウイルス感染者数が増えていることに心を痛めています。そのことに加え、長らく延期されていたオリンピックが開催され、日本の厚生労働省から、日々過去最高の感染者数更新が続いていることが報告されています。毎日、スタッフミーティングでの祈りの時間に、日本の状況をおぼえ、近いうちに通常の状態に戻ることを信じて祈っています。

親愛なる里親の皆さん、神さまは何回も、常に悪から良きものをもたらすことをしてこられました。そしてこの新型コロナウイルスの状況は、わたしたちが想像すらしなかった新しいことを教えてくれました。この新型コロナウイルスの様なことは、もちろん、わたしたちのほとんどにとっても初めての経験ですが、わたしたちの前の何世代はこれにまさるもっと酷い試練を乗り越えてきました。彼らの声はキリスト教の歴史にこだま (echo) となって響いています。それは、今の危機的局面中においても、神を見出す知恵を与えてくれます。多分、現在の状況の中で最も難しい課題は、わたしたちの誰もが耐え忍んでいる「孤立」の思いではないでしょうか。職場でいつも周りにいた人たち、電車や教会やスーパーでいつも周りにいた人たちの姿が今は見えません。今、わたしたちは友人や家族と会うことすら出来ません。しかし、この様な中においてさえも、何かのチャンスはあるはずで、直接会える人の数は少なくなっており、しなければならない仕事の数も減っていますが、わたしたちにとってかけがえのない人たちと、より深く繋がり合う時間と自由は与えられています。同時に、最も助けを必要としている人たちに手を差し伸べ、最も辛い苦しみを通らされている人たちにとって、わたしたちがどこか「神の顔」の様な働きをするチャンスが与えられています。パンデミックは、私たちの人生を様々な形でかき乱しました。しかし、パンデミックは、愛を最も必要としている人たちに愛を表すことを阻止することは、出来ませんでしたし、これから出来ないのです。これは、もしかしたら、わたしたちが空腹な人たちや、誰かの助けを待っている人たちに援助の手を差し伸べるための、より多くの機会と動機を与えることに手を貸しているのかもしれませんが、プリには本当に多くのお腹を空かせた家族が沢山います。とりわけプリ・キンダーガルテンスクールの生徒たちとその家族がそうです。このパンデミックの時期に、わたしたちは、よく祈り、この助けを必要としている多くの家族のために更なる支援の手を伸ばすことが必要とされています。皆さんの地域、教会、親戚、友人、同僚の中で、今ここで最も助けを必要としている人々を助けるために、わたしたちの輪に加わって下さる方がおられましたら、里親の会代表である松本素代美さんにご紹介をお願いします。

住所は〒852-8132 長崎市扇町 28-18 電話 090-7925-3703 メール taiyo-hoshi@tune.ocn.ne.jp です。

最後になりましたが、里親の皆さんの、子どもたち、学校のスタッフ、そしてわたしたち全員へのご愛と祈り、温かな思いに心から感謝を申し上げます。神が皆さんを祝福してくださいますように。

(翻訳・エイカーズ・愛)

(追記)

2021 年 8 月 27 日

現在は新型コロナウイルス関連の条例により、学校での活動は教室での授業とほんの一部の遊びしか許可されていません。運動やゲーム、文化活動などは許可されていません。学校では毎日子どもの数を制限しながら、その働きを続けています。生徒達は全員が、一日おきに交互に授業に出席する形をとっています。政府は新型コロナウイルス第3波を警戒しています。ムンバイとケララの人々に影響が出始めていて、わたしたちの住むこの地方にも広がって来ることは避けられません。政府は再び制約命令を発令しています。土曜と日曜は完全にシャットダウンがなされています。普段、お店は8時まで営業ますが、集会や社交的なイベントは禁じられています。結婚式などは出席者の数が制限され行われています。教会を含む宗教施設は今もまだ閉鎖状態が続いています。わたしたちが危惧しているのは、第3波が起こると、今度は完全なシャットダウンが実施されてしまうことです。現時点で子ども達が接種するワクチンはなく、大人のワクチン接種率も30%に留まっています。制約が解除されれば、他の活動も出来るようになります。制限命令により、わたしたちの校庭にある遊具も一時的に取り外さなければなりません。里親の皆さんがこの状況を理解して下さいようにと願っています。

(翻訳・エイカズ愛)

スクールの最近の活動の様子





ディレクター

S.K.モハンティ

わたしたちの連絡先

住所 Christian Organization for Development and Education,
Naomi Building, Station Road, Puri 752002, Odisha. INDIA

メール childrenshomepuri9@gmail.com

電話 +91-8114996370 携帯 +91-7204002024